



TITLE:

表紙、巻首図版、序、例言、目次
、図版目次、挿図目次、表目次、
正誤表、中扉、奥付

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙、巻首図版、序、例言、目次、図版目次、挿図目次、表目次、正
誤表、中扉、奥付. 京都大学構内遺跡調査研究年報 1986, 1983

ISSUE DATE:

1986-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/227310>

RIGHT:

京都大学構内遺跡調査研究年報

昭和58年度

京都大学埋蔵文化財研究センター

序

埋蔵文化財研究センターが構内遺跡調査の緊急措置として設立されてから、はや十年目をむかえようとしている。調査の方針も確立し、着実な歩みをかさねてきた。構内の遺跡の調査と研究をめざしたセンターの機能をはたしつつある。調査の結果、とくに吉田キャンパスには、縄文から近世にいたる各時代の遺跡が積層している様相がしだいに明らかになってきた。調査と研究はセンターを中心に核として理学部地質鉱物学教室、動物学教室、農学部林学教室、工学部建築学教室など、学内各研究室の積極的協力のもとにすすめられてきたことはいままでもない。

埋蔵文化財研究センターは、学内の遺跡の調査と研究、保存と活用をめざして、実際の活動をつづけている。じっさい、次々と計画される学内の新営建物の事前調査が主な調査となっているのが現状である。不安定な研究組織ときびしい条件のもとで、研究センターの構成メンバーは懸命な努力をつづけ、それぞれ注目すべき研究成果をあげてきた。

この報告は昭和58年度の遺跡調査研究年報であり、第Ⅱ部は構内遺跡を中心に各地の関連する遺跡について検討した研究成果をまとめ、研究センターの紀要としたものである。御高覧いただき、御批判下さるようおねがいしたい。大学はその位置する地域に深い根をおろし、その地域の発展に先導的役割をはたしてきたし、今後もしつづけなければならない。埋蔵文化財研究センターも、遺跡の調査と研究をいっそう発展させ、保存と活用についても、他に先がけてその範となるような先駆的実験をくり返していきたい。

最後に、今回も、学内、学外の関係者の方々に御指導、御協力、御助言をいただいた。とりわけ、本学の施設部、医学部、工学部、農学部などの関係者各位、また文学部博物館改築にともなう試掘調査を依頼した文学部考古学教室にたいして、あらためて謝意を表したい。今後とも変りない御指導、御協力の程をおねがいしたい。

昭和61年1月

京都大学埋蔵文化財研究センター長

西 川 幸 治

例 言

- 1 本年報は、京都大学構内で昭和58年4月から同59年3月末日までに発掘、整理作業を終了した埋蔵文化財調査と保存の報告、および京都大学埋蔵文化財研究センターにおける研究成果をまとめたものである。
- 2 国土座標にしたがって、一辺50mの方形の地区割りをして、遺跡の位置を表示した。
- 3 層位と遺構の位置については、国土座標第6座標系($x = -108,000$ $y = -20,000$)が($X = 2,000$ $Y = 2,000$)となる京都大学構内座標によって表示した。
- 4 遺構の略号は、奈良国立文化財研究所の方式にしたがって、井戸：SE，土坑：SKのように表示し、各調査ごとに通し番号を1から付した。
- 5 遺物には、遺跡の調査名を示すローマ数字と、調査ごとの通し番号を1から付した。この遺物番号は、本文、実測図、写真を通して表示を統一した。
Ⅰ：京都大学本部構内AT29区の発掘調査
Ⅱ：京都大学北部構内BE33区の発掘調査
Ⅲ：京都大学医学部構内AN20区の発掘調査
(例ⅠⅠ：京都大学本部構内AT29区出土遺物1番)
- 6 原則として、遺物の実測図は縮尺1/4、遺物の写真は約1/2に統一した。他の縮尺のものは、それぞれに縮尺を明記した。
- 7 注は、各章ごとにまとめて章末に記載した。また、第Ⅰ部の参考文献は、本文末に、[著者名 発表年]の形式で表わし、第Ⅰ部の末に一括した。第Ⅱ部については、各章末の注に一括して記載した。
- 8 遺構・遺物の実測と製図は、泉拓良，清水芳裕，五十川伸矢，浜崎一志，宮本一夫，菱田哲郎，飛野博文，三宅由美，川島はる代，寺島千春，鎌田博子，森本晋，玉田芳英，古賀秀策がおこなった。遺物の撮影は清水芳裕，菊原淳が担当した。
- 9 本文は、上田正昭，川上貢，泉拓良，五十川伸矢，浜崎一志，飛野博文，三宅由美が各章を分担執筆した。執筆者名は各章の初めに記した。
- 10 編集は上田正昭の指導のもとに浜崎一志が担当し，清水芳裕，五十川伸矢，宮本一夫，菱田哲郎，三宅由美が協力した。

京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和58年度

目 次

第Ⅰ部 昭和58年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

第1章 昭和58年度京都大学構内遺跡調査の概要	1
1 調査の概要	1
2 調査の成果	2
3 医学部構内AM19区の立会調査	3
第2章 京都大学本部構内A T 29区の発掘調査	5
1 調査の経過	5
2 層 位	5
3 遺構と遺物	6
4 軒瓦・平瓦・丸瓦	12
5 小 結	13
第3章 京都大学北部構内B E 33区の発掘調査	15
1 調査の経過	15
2 層 位	15
3 平安時代以後の遺構と遺物	17
4 縄文・弥生時代の遺構と遺物	23
5 小 結	26
第4章 京都大学医学部構内A N 20区の発掘調査	27
1 調査の経過	27
2 層 位	27
3 遺 構	28
4 遺 物	32
5 小 結	35

参 考 文 献	38
---------------	----

京都大学構内遺跡調査要項	40
--------------------	----

第Ⅱ部 京都大学埋蔵文化財研究センター紀要Ⅳ

胎土分析による窯跡出土須恵器の分類	49
-------------------------	----

1 はじめに	49
--------------	----

2 魚住窯跡出土須恵器	50
-------------------	----

3 丹波窯，備前窯の製品とその比較	53
-------------------------	----

4 消費地出土須恵器の製作地同定	56
------------------------	----

平瓦の数量計測方法の分析	61
--------------------	----

——生産遺跡出土平瓦の場合——

1 はじめに	61
--------------	----

2 各種の数量計測法	62
------------------	----

3 各種の計測法による総量の比較	63
------------------------	----

4 計測数値の利用法	68
------------------	----

5 小 結	71
-------------	----

図 版 目 次

- 1 京都大学吉田キャンパスの地区割と調査地点
- 2 京都大学本部構内 A T 29 区
 - 1 中世の遺構(西から)
 - 2 建物 S B 1・S B 2, 柵 S A 1 (西から)
- 3 京都大学本部構内 A T 29 区
 - 1 濠状遺構 S K 2 (西から)
 - 2 濠状遺構 S K 2 遺物出土状況(西から)
- 4 京都大学本部構内 A T 29 区
 - 1 土坑 S K 14 遺物出土状況(南から)
 - 2 土坑 S K 21 (東から)
- 5 京都大学本部構内 A T 29 区
S K 14・S K 51 出土遺物
- 6 京都大学本部構内 A T 29 区
S K 2 出土遺物, 軒瓦, 篋記号のある瓦
- 7 京都大学北部構内 B E 33 区
 - 1 表土除去後の全景
 - 2 灰褐色土 1 上面検出の遺構
 - 3 灰褐色土 2 上面検出の遺構
 - 4 灰褐色土 3 上面検出の遺構
 - 5 赤褐色土 1 上面検出の遺構
- 8 京都大学北部構内 B E 33 区
 - 1 赤褐色土 2 上面検出の遺構
 - 2 暗褐色土上面検出の遺構
 - 3 黄色砂上面検出の遺構
 - 4 黒褐色粘質土上面検出の遺構
 - 5 地山直上の遺構
- 9 京都大学北部構内 B E 33 区
 - 1 青灰色耕土上部の溝
 - 2 灰褐色土 3 上面の溝と野壺
 - 3 赤褐色土 1 上面の溝と野壺
 - 4 暗褐色土上面の畦畔と溝
- 10 京都大学北部構内 B E 33 区
 - 1 黄色砂上面の遺構(西から)
 - 2 野壺 S E 1 底板出土状況(北から)
 - 3 縄文時代の河川 S R 1 (西から)

- 11 京都大学北部構内 B E 33区
 - 1 縄文晩期の土器
 - 2 縄文前・中・後期の土器
- 12 京都大学北部構内 B E 33区
縄文晩期の土器
- 13 京都大学医学部構内 A N 20区
 - 1 調査区全景(西から)
 - 2 不定形土坑, 井戸 S E 1・S E 2(南から)
- 14 京都大学医学部構内 A N 20区
 - 1 井戸 S E 2 (南から)
 - 2 井戸 S E 2 遺物出土状況(南から)
 - 3 井戸 S E 4 (南から)
 - 4 井戸 S E 1 (東から)
 - 5 井戸 S E 5 (北から)
 - 6 井戸 S E 3 (南から)
- 15 京都大学医学部構内 A N 20区
S E 2 出土遺物
- 16 京都大学医学部構内 A N 20区
不定形土坑・S K 1・S E 3・S E 1 出土遺物

挿 図 目 次

昭和58年度構内遺跡調査の概要

図1 立合調査の位置…………… 3

図2 TP1西壁の層位…………… 3

図3 赤褐色土・不定形
土坑出土遺物…………… 4

本部構内AT29区の発掘調査

図4 調査区東壁の層位…………… 5

図5 検出遺構…………… 6

図6 建物SB1・SB2…………… 7

図7 SK14出土遺物…………… 9

図8 SK1・SK2出土遺物…………… 10

図9 SK10・SK16・SK46・SK51・
SD1・SD3・SB1・SD4・
SK21出土遺物…………… 11

図10 SB2-1出土青白磁…………… 12

図11 SK10出土鉄鏃…………… 12

図12 軒 瓦…………… 13

図13 篋記号のある瓦…………… 14

北部構内BE33区の発掘調査

図14 調査区東西畔南壁の層位…………… 15

図15 昭和51年度調査区・
本調査区東壁の層位…………… 16・17

図16 灰褐色土1上面検出の遺構……………16	図29 検出遺構……………29
図17 灰褐色土3上面検出の遺構……………17	図30 井戸SE5・SE3・ SE1・SE2……………31
図18 野壺SE1・SE2……………18	図31 不定形土坑出土遺物……………32
図19 赤褐色土2上面検出の遺構……………19	図32 SE3・SK1・SE5・ 不定形土坑・SE2・ SE4・SE1出土遺物……………33
図20 黄色砂上面検出の遺構……………19	図33 SK1出土須恵器……………34
図21 灰褐色土1・灰褐色土2・灰褐色 土3・赤褐色土1・灰赤褐色土1・ 赤褐色土2出土遺物……………20	図34 調査区周辺の字境界……………37
図22 赤褐色土3・暗褐色土・SD17・ 砂混黒色土・SD19・SD23・ SD42・SK18・SK55 出土遺物……………21	胎土分析による窯跡出土須恵器の分類
図23 縄文後期の地形復原……………23	図35 魚住窯跡群分析試料……………52
図24 縄文・弥生土器……………23	図36 元素組成にもとづく分類樹(1)……………55
図25 縄文土器(1)……………24	図37 元素組成にもとづく分類樹(2)……………55
図26 縄文土器(2)……………25	図38 元素組成にもとづく分類樹(3)……………56
図27 土器の時期と その出土位置……………26	図39 元素組成にもとづく分類樹(4)……………58
医学部構内AN20区の発掘調査	図40 元素組成にもとづく分類樹(5)……………58
図28 調査区中央東西畔南壁の層位……………28	図41 元素組成にもとづく分類樹(6)……………59
	平瓦の数量計測方法の分析
	図42 OKⅣ・OKⅠ型式の破片の 重量別ヒストグラム……………65

表 目 次

表1 SE2出土遺物……………35	表6 OKⅣ型式平瓦の重量別総量……………66
表2 京都大学構内遺跡の おもな調査……………44	表7 2号窯出土平瓦の総量……………67
表3 分析試料……………51	表8 側面形態・端面形態の総量……………69
表4 胎土の元素組成……………54	表9 各種の手法の総量……………69
表5 OKⅠ・OKⅢ・OKⅣ・ OKⅤ型式平瓦の総量……………63	

第Ⅰ部 昭和58年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

第1章 昭和58年度京都大学構内遺跡調査の概要

第2章 京都大学本部構内A T29区の発掘調査

第3章 京都大学北部構内B E33区の発掘調査

第4章 京都大学医学部構内A N20区の発掘調査

第Ⅱ部 京都大学埋蔵文化財研究センター紀要Ⅳ

胎土分析による窯跡出土須恵器の分類

平瓦の数量計測方法の分析

——生産遺跡出土平瓦の場合——

昭和61年 3 月18日印刷

昭和61年 3 月31日発行

京都大学構内遺跡調査研究年報

昭和58年度

編 集 京都大学埋蔵文化財研究センター
発 行 京 都 市 左 京 区 吉 田 本 町
印 刷 山 代 印 刷 株 式 会 社
製 本 京 都 市 上 京 区 寺 之 内 通 小 川 西 入